



石川 一洋 (ISHIKAWA Ichiyou)

NHK 解説委員

東京大学文学部ロシア語ロシア文学科卒業。

1982 年NHK入局。秋田放送局記者 (1982-85)、青森放送局三沢通信部記者 (1985-88)、報道局取材センター国際部記者 (1988-92)、モスクワ支局記者 (1992-96)、報道局国際部記者 (1996-98)、報道局国際部デスク・日露プロジェクト統括 (1998-2002)、モスクワ支局長 (2002-2007) を経て、2007 年秋より現職。

主にペレストロイカ末期から現在に至るロシア現代を取材テーマとしてきている。例えば：

- 旧ソビエト末期・ペレストロイカに伴う民主化運動、民族運動の勃興、クーデター未遂事件、連邦崩壊など。
- 連邦崩壊から新生ロシア誕生での混乱期：市場経済改革、大統領権限と議会の対立、チェチェン紛争、民営化に伴う財閥の登場、九六年共産党との対決となったロシア大統領選挙。
- 旧ソビエト・ロシアの核開発の歴史と連邦崩壊後の混乱に伴う核技術の流出、旧ソビエト諸国 (カザフスタン、ウクライナ) の核保有および核放棄への動き。
- オウム真理教や犯罪組織などロシア社会の混乱。
- カスピ海からのパイプラインルートをめぐるロシアと欧米の覇権争い。
- ソビエト崩壊後のアイデンティティ確立の問題。
- ロシア金融危機などロシア経済の落ち込み、物々交換の広がり。
- 日ロ関係、東京宣言、クラスノヤルスク、川奈などエリツィン政権期、そしてプーチン政権における日ロ関係の進展と混乱。
- エリツィン後継の中でのプーチンの登場、第二次チェチェン紛争。
- プーチン政権初期の経済成長、テロとの戦い。財閥と政権の対立。
- ロシアのエネルギー開発、エネルギー産業における国家の回復。
- 第二期プーチン政権・ロシア経済の復興と中央集権的な体制への確立の動き、ロシア資本主義の拡大。ロシアにおける主権民主主義。
- プーチンからメドベージェフへ・二頭政権継承への動き。
- ロシアの方向性・文化。哲学。音楽など。



岩田 ヘレン (IWATA Helen)

President of Sasuga Communications K. K.
(株式会社さすがコミュニケーションズ 代表取締役)

Master of Arts in Advanced Japanese Studies, Sheffield University.
German and Japanese, Aston University.

Originally from England, Helen has lived and worked in Japan thirty years. As manager of client communications at McKinsey & Company in Tokyo, she trained consultants and clients in communication skills. In May 2013, Helen established Sasuga! Communications to help people create communication habits for success and happiness in global business. She offers workshops, webinars, online courses and communities, and coaching in giving presentations, facilitating meetings, participating in conference calls, and other communication skills for the global workplace. Helen shares communication tips with her community through her weekly newsletter "Sasuga! Tips For You," membership online community "Sasuga! Circle," and weekly podcast "Sasuga! Podcast."

She is the go-to person for multiple multinationals to design and lead their training programs. Helen has delivered presentations and workshops throughout Japan, as well as in Australia, China, India, Indonesia, the Philippines, Poland, Singapore, the United Kingdom, and the United States.

Helen is a TEDx speaker, author of 『英語の仕事術』, published by Shogakukan in April 2016, and a Nikkei Style monthly columnist.

Helen holds a 4th dan black belt in Itosu-ryu karate and also practices Kongo-ryu Ryukyu kobudo.



北川 フラム (KITAGAWA Fram)

アートディレクター
株式会社アートフロントギャラリー代表取締役会長
公益財団法人福武財団常任理事
北京大学客員教授
財団法人地域創造顧問

東京芸術大学卒業。

主なプロデュースとして、現在のガウディブームの下地をつくった「アントニオ・ガウディ展」(1978-1979)、日本全国 80 校で開催された「子どものための版画展」(1980-1982)、全国 194 ヶ所 38 万人を動員し、アパートヘイトに反対する動きを草の根的に展開した「アパートヘイト否！国際美術展」(1988-1990) 等。

地域づくりの実践として、「ファーレ立川アート計画」(1994/日本都市計画学会計画設計賞他受賞)、2000 年にスタートした「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(第 7 回オーライ！ニッポン大賞グランプリ [内閣総理大臣賞] 他受賞)、「瀬戸内国際芸術祭 2010,2013,2016」(海洋立国推進功労者表彰受賞) 等。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、「瀬戸内国際芸術祭」、「北アルプス国際芸術祭」「奥能登国際芸術祭」の総合ディレクター。

主な著書として『直島から瀬戸内国際芸術祭へ—美術が地域を変えた』(福武総一郎氏と共著、現代企画室、2016 年)、『ひらく美術—地域と人間のつながりを取り戻す』(筑摩書房、2015 年)、『Art Place Japan The Echigo-Tsumari Art Triennale and the Vision to Reconnect Art and Nature』(Princeton Architectural Press、2015 年)、『美術は地域をひらく 大地の芸術祭 10 の思想』(現代企画室、2014 年)、『大地の芸術祭 ディレクターズ・カット』(角川学芸出版、2010 年)、『希望の美術・協働の夢 北川フラムの 40 年』(角川学芸出版 2005 年) 等、他多数。

長年の文化活動により、2003 年フランス共和国政府より芸術文化勲章シュヴァリエ、ポーランド共和国より文化勲章を受勲。2006 年度芸術選奨文部科学大臣賞(芸術振興部門)、2007 年度国際交流奨励賞・文化芸術交流賞受賞。2012 年オーストラリア名誉勲章・オフィサー受賞。2017 年度「朝日賞」受賞。2018 年文化功労者。2019 年度イーハトーブ賞を受賞。



川崎 達生 (KAWASAKI Tatsuo)

ユニゾン・キャピタル株式会社 代表取締役パートナー

米国ハーバード・ビジネス・スクール修了 (MBA 経営学修士)。

1990 年ゴールドマン・サックス証券会社入社。投資銀行部門において、不動産金融及び企業金融プロジェクトに携わる。

1993 年からハーバード・ビジネス・スクール留学 (MBA) 後、マッキンゼー社の東京とサンフランシスコオフィスにおいて戦略コンサルタントに従事。その後、米国 NextCard, Inc. でベンチャー企業の立ち上げから IPO にかかわる。

1998 年ユニゾン・キャピタル株式会社設立に参画。現在同社代表取締役パートナー。ユニゾン・キャピタルでは、日本・韓国において中堅企業を対象にプライベートエクイティファンドを運営し、企業価値累計 6000 億円超の投資を实践。

主な担当先には、建デポ、ミニット・アジア・パシフィック (靴修理)、エノテカ (ワイン輸入販売)、あきんどスシロー (回転寿司)、ドラッグイレブン (ドラッグチェーン)、キリウ (自動車部品)、オリエント信販 (消費者金融) などがある。

東大 EMP 第 3 期生 (2009 年 10 月～2010 年 3 月)。



田中 修 (TANAKA Osamu)

財務省財務総合政策研究所特別研究官 (中国研究交流顧問)
日本貿易振興機構 (ジェトロ) 新領域研究センター 上席主任調査
研究員

東京大学法学部卒業。
東京大学大学院総合文化研究科 (学術博士号)。

東京大学法学部卒業、大蔵省に入省。国税庁・銀行局・主計局勤務を経て、1996年から2000年まで在中国日本国大使館経済部に1等書記官・参事官として勤務し中国経済を分析。帰国後、財務省主計局主計官、信州大学経済学部教授、内閣府参事官、財務総合政策研究所研究部長を経て、2010年7月から同研究所次長 (副所長)、2016年6月から国税庁税務大学校長を兼務。2017年10月退官、同月より財務総合政策研究所特別研究官 (中国研究交流顧問) に就任。2017年12月～18年11月、損害保険ジャパン日本興亜株式会社顧問。2018年12月より、ジェトロ・アジア経済研究所 新領域研究センター 上席主任調査研究員。

2005年7月、中国の経済政策史の研究で東京大学大学院総合文化研究科より学術博士号取得。2008年10月～2009年3月東大EMP第I期受講生。2009年4～9月、東京大学大学院総合文化研究科客員教授。2008年10月～2019年9月東京大学政策ビジョン研究センター客員研究員。2018年4月より、奈良県立大学特任教授。2019年4月より、拓殖大学大学院経済学研究科客員教授。

専門は、現代中国のマクロ経済・マクロ経済政策の動向分析。

著書は「日本人と資本主義の精神」(ちくま新書、2017年)、「スミス、ケインズからピケティまで 世界を読み解く経済思想の授業」(日本実業出版社、2015年)、「2011～2015年の中国経済―第12次5ヵ年計画を読む―」(蒼蒼社、2011年)、「検証 現代中国の経済政策決定―近づく改革開放路線の臨界点―」(日本経済新聞出版社、2007年)、「中国第10次5ヵ年計画―中国経済をどう読むか?―」(蒼蒼社、2001年)、「2020年に挑む中国―超大国の行方」(共著、文眞堂、2016年)、「中国経済はどう変わったか」(共著、国際書院、2014年)、「中国ビジネスを理解する」(共著、中央経済社、2013年)、「中国資本市場の現状と課題」(共著、財経詳報社、2013年)、「中国は、いま」(共著、岩波新書 2011年)、「国際金融危機後の中国経済」(共著、勁草書房、2010年)、「中国経済のマクロ分析」(共著、日本経済新聞出版社、2006年)、「中国の経済構造改革」(共著、日本経済新聞出版社、2006年) など。

論文は、「第9次5ヵ年計画から第10次5ヵ年計画へ―中国マクロ経済政策の動向分析―」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」56号、2001年所収)、「中国経済政策史 (1996―2004)―財政・金融を中心に―」(財務省財務総合政策研究所ディスカッション・ペーパー 05A-09、2005年)、「中国第11次5ヵ年計画の研究―第10次5ヵ年計画との対比において―」(内閣府経済社会総合研究所ディスカッション・ペーパーNo.170、2006年)、「2008年における中国のマクロ経済政策の転換―引締めから緩和への政治過程―」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」96号、2009年所収)、「中国のマクロ経済政策」(日本評論社「経済セミナー」2010年8・9月号所収)、日本経済新聞「経済教室」(2011年2月3日、2012年4月24日、2013年8月26日)、「習近平指導部の経済改革・経済政策」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」119号、2014年所収)、「習近平体制第II期の経済政策の基本理念」(財務省財務総合政策研究所「フィナンシャル・レビュー」138号、2019年所収)、「経済改革40年の成果と課題」(日本国際問題研究所「国際問題」2019年10月号所収)ほかも多数。

「検証 現代中国の経済政策決定―近づく改革開放路線の臨界点―」でアジア・太平洋賞特別賞を受賞 (2008年)。

【外部講師陣】



土屋 了介 (TSUCHIYA Ryosuke)

株式会社エムティアイ社外取締役
公益財団法人ときわ会顧問

慶応義塾大学医学部卒業、
医学博士 (東京医科大学)。

職歴：

1970年5月 日本鋼管病院外科
1973年6月 国立がんセンター病院レジデント
1976年7月 国立療養所松戸病院外科
1977年4月 Mayo Clinic 留学
1977年10月 防衛医科大学校外科学第二講座 助手
1979年1月 国立がんセンター病院 外科医員
1985年2月 Mayo Clinic 留学
1985年5月 国立がんセンター病院 ICU 病棟医長
1991年4月 国立がんセンター病院 第一病棟部長
2002年4月 国立がんセンター中央病院 副院長
2006年4月 国立がんセンター中央病院 病院長
2010年4月 財団法人癌研究会 顧問
2011年4月 公益財団法人がん研究会 理事
2014年4月 地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長
2018年4月 公益財団法人がん研究会 理事
2018年6月 株式会社エムティアイ 顧問
2020年6月 株式会社エムティアイ 社外取締役 現在に至る

専門：

胸部外科学 (特に進行肺癌の手術)、胸部診断学、医療制度論、医学教育論

受賞歴：

1984年2月 田宮賞 (国立がんセンター) (「心大血管外科的手術手技の肺癌外科への導入」に対して)
1987年6月 刀林賞 (慶応義塾大学外科同窓会) (雑誌モダンメディスン連載「肺癌を読む」に対して)

その他：

政府委員 (内閣府規制改革会議専門委員(健康・医療 WG)、内閣府特区評価委員など)、法人理事 (公益財団法人日本心臓血管研究所、一般財団法人世界こども財団、NPO 健康医療開発機構、NPO ものづくり生命文明機構、公益財団法人ヒューマンサイエンス財団) など。他に、学会理事・学会評議員など多数歴任。

【外部講師陣】



堤 剛 (TSUTSUMI Tsuyoshi)

チェリスト
日本芸術院会員
サントリー芸術財団代表理事
サントリーホール館長
桐朋学園大学特命教授

国際的に活躍する日本を代表するチェリスト。父の手ほどきでチェロを学び、故斎藤秀雄に師事。8歳でリサイタルを開き、15歳で日本音楽コンクール第1位・特賞。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）卒業後、インディアナ大学に留学。1963年には21歳で師シュタルケルの助手を務める。同年ミュンヘン国際コンクール第2位、カザルス国際コンクール第1位に輝き、本格的な演奏活動に入った。1965年インディアナ大学より「アーティスト・ディプロマ」。西オンタリオ大学准教授、イリノイ大学教授、インディアナ大学教授をへて、現在、桐朋学園大学特命教授（前学長）、韓国国立芸術大学客員教授、公益財団法人サントリー芸術財団代表理事・サントリーホール館長、霧島国際音楽祭音楽監督、一般財団法人日本チェロ協会理事長等を務めている。2009年、日本芸術院会員に選出される。2015年 公益社団法人日本演奏連盟 理事長に就任。

主な受賞は、鳥井音楽賞（現サントリー音楽賞）（1971年）、イザイ・メダル（ベルギー）（1973年）、芸術祭優秀賞、レコード・アカデミー賞（1980年）、モービル音楽賞、N響有馬賞（1987年）、日本芸術院賞（1993年）、中島健蔵賞（1998年）、紫綬褒章（2009年）、文化功労者 選出（2013年）、Thomas Hart Benton Mural Medallion（米国インディアナ大学）（2014年）、ウィーン市功労名誉金章（オーストリア）（2016年）、毎日芸術賞音楽部門（2017年）、渡邊暁雄音楽基金特別賞（2017年）、文化庁創立50周年記念表彰（2018年）など多数。

録音の活動もめざましく「バッハ無伴奏チェロ組曲全6曲」、「ベートーヴェン：チェロソナタ全集」で数々の受賞歴を誇るほか、演奏活動60周年記念版「アンコール」（2010年）、堤の古稀を祝って日本の名だたる作曲家たちが書きおろした新作「アニバーサリー」（2013年）、「ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」（2016年）「フランク & R. シュトラウス：ソナタ」（2017年）がリリースされ絶賛されている。

著書に『私のイリノイ日記...チェロとともに』（音楽之友社）、『チェロを生きる』（新潮社）がある。

【外部講師陣】



中川 秀宣 (NAKAGAWA Hidenori)

TMI 総合法律事務所 パートナー 弁護士

東京大学法学部卒業、
シカゴ大学ロースクール卒業。
法学修士 (LL.M) (1997 年)。
ニューヨーク州弁護士資格取得 (1998 年)。

1992 年弁護士登録 (第一東京弁護士会)。最高裁判所司法修習所、長島・大野法律事務所 (現長島・大野・常松法律事務所)、カークランド・アンド・エリス法律事務所 (シカゴ)、メリルリンチ証券会社東京支店を経て、2004 年 TMI 総合法律事務所パートナーとして参画し、現在に至る。東大 EMP 第 2 期生。

主に、M&A、バンキング、キャピタル・マーケット、金融コンプライアンス、不動産取引、投資ファンド・ビジネス、ストラクチャード・ファイナンス/流動化、買収ファイナンス、会社の支配権を巡る紛争、不良資産ビジネス、国際取引法務などを手掛けている。



野村 万蔵 (NOMURA Manzo)

狂言和泉流野村万蔵家九代目当主

学習院大学法学部政治学科二年修了。

七世野村万蔵（現・初世萬、人間国宝、文化功労者）の次男。祖父の六世万蔵（人間国宝）及び父に師事。幼少より祖父、父から厳しい稽古を受け、4歳にて狂言「靱猿」の子猿役で初舞台を踏む。狂言師の修行の節目において、「奈須与市語」（昭和 60 年）、「三番叟」（昭和 62 年）、「釣狐」（平成 2 年）、「花子」（平成 7 年）等、秘曲・大曲を披く。昭和天皇在位 50 年、60 年の記念式典では、宮中にて狂言を演じた。平成 17 年本家の名跡九世万蔵を襲名。重要無形文化財総合指定保持者。

東京藝術大学非常勤講師、桜美林大学非常勤講師、劇団青年座研究所講師、公益財団法人としま未来文化財団評議員（平成 27 年～）。

野村万蔵家はかつて北陸の加賀前田藩お抱えとなり、初代より狂言棟取役を仰せ付けられた家柄。明治維新により上京後も、本郷の旧前田侯爵邸での能楽上演に出勤した（五世万造）。

< 現在 >

狂言野村万蔵家の品位ある古典的な芸風を受け継ぎ、その伝統と歴史の伝承につとめる。一門の組織〈萬狂言（よろずきょうげん）〉を率い、東京と金沢・福岡・大阪において自主公演を行なうほか、学校公演として全国各地の学校において青少年に向けた狂言鑑賞教室やワークショップを開催。また、国内にとどまらず、アジアやヨーロッパなど海外公演にも積極的に参加している。

狂言の可能性を追求する新しい試みとして、お笑い界のリーダー的存在である南原清隆氏（ウッチャンナンチャン）と共に、古典の笑いとは現代の笑いを融合した「現代狂言」を旗揚げ（平成 18 年）し、全国公演を展開。また歴史学者磯田道史氏と史実に基づく新作狂言の創作をスタートさせ、平成 29 年夏に新作狂言「信長占い」を発表。

現代のアーティストとのコラボレーションでは、ももいろクローバーZ ライブへの出演や、SAMURIZE from EXILE TRIBE と舞を舞うなど、新しい事への挑戦を続けている。

DIGITAL CONTENT EXPO において、ASIAGRAPH2017 匠賞を受賞した。



林 竜也 (HAYASHI Tatsuya)

ユニゾン・キャピタル株式会社 代表取締役パートナー

東京大学法学部卒業。

1991 年ゴールドマン・サックス証券会社に入社し、企業金融に携わる。1998 年投資銀行部門ヴァイス・プレジデント。同年 10 月ユニゾン・キャピタル株式会社を設立、代表取締役パートナー。

日本および韓国で中堅企業を主たる投資対象とするプライベート・エクイティ・ファンドを設立し、これまでに企業価値ベースで累計 8,000 億円超の企業投資を行っている。アスキー、東ハト、クラシエ (旧カネボウ)、あきんどスシロー、エノテカなどコンシューマー領域と、昭和薬品化工、あゆみ製薬、LTL ファーマ、地域ヘルスケア連携基盤などのヘルスケア領域での投資を中心に担当している。

2008 年 10 月 - 2009 年 3 月東大 EMP 第 1 期生。



ロバート・アラン・フェルドマン (FELDMAN Robert Alan)

モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社
シニア・アドバイザー

米国マサチューセッツ工科大学経済学博士号、
イエール大学経済学／日本研究学士号。

Robert Alan Feldman is Senior Advisor to the Research Department of Morgan Stanley MUFG Securities. He has been part of Morgan Stanley's global economics team since 1998, where he is responsible for thematic research on the Japanese economy. He also serves as a member of several economic study committees of various ministries of the Japanese government, and has served as a commissioner of the Japan-US Friendship Commission. Since 2000, he has been a regular commentator on World Business Satellite, the nightly business program of TV Tokyo. Since 2017, Robert has also been a professor at Tokyo University of Science, in the Management of Technology program.

Prior to joining Morgan Stanley in 1998, Robert was the chief economist for Japan for Salomon Brothers from 1990-97. He worked for the International Monetary Fund from 1983-89, in the Asian, European, and Research Departments.

Robert has a Ph.D. in Economics from the Massachusetts Institute of Technology, where he concentrated on international finance and development. He did his undergraduate work at Yale University, where he took BAs in both Economics and in Japanese Studies, graduating phi beta kappa, summa cum laude. Before entering graduate school, he worked at both the Federal Reserve Bank of New York and at the Chase Manhattan Bank.

Robert has published nine books, Japanese Financial Markets: Deficits, Dilemmas, and Deregulation (MIT Press, 1986), Nihon no Suijaku ("The Weakening of Japan", Toyo Keizai 1996, in Japanese) and Nihon no Saiki ("Starting Over", Toyo Keizai 2001, in Japanese), Kozo kaikaku no saki wo yomu ("Beyond Structural Reform", Toyo Keizai 2005, in Japanese), Ichiryu Anarisuto no Nanatsu Dogu ("The Seven Skills of Top Analysts", President-sha 2008, in Japanese), "Public Debts: Nuts, Bolts and Worries" with Barry Eichengreen et al., CEPR, 2011), Nihon Keizai - Kishikaisei no sutori ("Japanese Economy: A Rebirth Story", PHP, 2011, in Japanese, with Seiichi Takarabe), Feldman-shiki Chiteki Seizan-jutsu ("Feldman's Intellectual Production Method", President 2012, in Japanese), and the recent book, Feldman-hakase no Nihon Keizai Saishin Kogi ("Dr. Feldman's the Latest Lecture on the Japan Economy, Bungeishunju, 2015, in Japanese). A fluent speaker of Japanese, he has also translated four books from Japanese to English, including Economic Growth in Prewar Japan (by Takafusa Nakamura, Yale U. Press).

Robert first came to Japan in 1970, as an exchange student, spending a year in Nagoya. He subsequently spent study years at both the Nomura Research Institute (1973-74), and at the Bank of Japan (1981-82).



山田 誠二 (YAMADA Seiji)

国立情報学研究所 教授
総合研究大学院大学 教授
東京工業大学 特定教授

大阪大学大学院博士課程修了。

1989 年大阪大学大学院博士課程を修了後、大阪大学助手、同大学講師、東京工業大学大学助教授を経て、2002 年より現職。

専門は人工知能、知的ロボットで、Web インテリジェンス等の研究を行ってきた。ここ 10 年は、「人間と協調する人工知能(Interactive AI)」がメインテーマであり、現在 HAI ヒューマンエージェントインタラクション、IIS 知的インタラクティブシステムを中心に様々な研究プロジェクトを進めている。

主な著書に、山田誠二 (著)『本当は、ずっと愚かで、はるかに使える AI』(日刊工業新聞社、2019 年)、山田誠二 (共著)『マインドインタラクション』(オーム社、2019 年) などがある。

2016 年 6 月～2018 年 6 月，人工知能学会会長。



山梨 広一 (YAMANASHI Hirokazu)

イオン株式会社 アドバイザー

東京大学経済学部卒業。
米国スタンフォード大学経営大学院修了 (MBA)。

富士写真フィルム (株) を経て、1990 年マッキンゼー・アンド・カンパニーへ入社、2003 年に同社ディレクター (シニア・パートナー) に就任、2014 年 3 月退職。その後、イオン株式会社専務執行役、株式会社 LIXIL グループ COO などを経て、現在イオン株式会社アドバイザーなどを務める。

マッキンゼー在職中は、経営コンサルタントとして、小売・消費財グループの分野を中心とするクライアント企業に対して、成長戦略、合従連衡、マーケティング、組織改革、オペレーション改革などのプロジェクトに従事。イオン株式会社においては、イオングループの中期経営計画、グループ戦略、企業提携などを担当。

主な著書に『経営戦略の教科書』(あさ出版 2018)、『必ずできる。』(東洋経済新報社 2017)、『3原則』(SBクリエイティブ 2017)、『いい努力』(ダイヤモンド社、2016)、『シンプルな戦略: 戦い方のレベルを上げる実践アプローチ』(東洋経済新報社、2014)、『プロヴォカティブ・シンキング 一面白がる思考』(東洋経済新報社、2010)、『マッキンゼー プライシング』(共著、ダイヤモンド社、2005)、『マーケティング・プロフェッショナルリズム』(共著、ダイヤモンド社、2002)、『ニューグロース戦略』(共著、NTT 出版、1997) などがある。



山本 修 (YAMAMOTO Osamu)

ユニゾン・キャピタル株式会社 パートナー
東京工業大学非常勤講師

慶応義塾大学経済学部卒業。

University of Chicago, Graduate School of Business 卒 (MBA)。

東京工業大学社会理工学研究科 博士課程修了 (学術博士)。

三和銀行、マッキンゼーを経て 2001 年にユニゾン・キャピタルに参画。日本におけるプライベート・エクイティ業務の先駆者として理論・実務の確立に向けて活動中。また、ASEAN 及びインドにおける社会起業家の活動に注目し、日本の投資家と、これらの投資機会を結びつける活動を展開中。

実務家としての経験をもとに「財務危機処理の経済分析と我が国倒産法制の評価」(『経営財務研究』第 23 巻第 2 号)、「財務危機企業のパフォーマンスとメインバンクの役割」(『経営財務研究』第 24 巻第 1 号)、「イノベーション創出システムの再設計」(『一橋ビジネスレビュー』59 巻 1 号) 等の学術論文を発表している。

東大 EMP 第 14 期生 (2015 年 10 月～2016 年 3 月)。